2026年度 第2四半期決算

2026.11.10



コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード【5021】

目次

P. 3 – 9

2026年度第2四半期決算 ハイライト
企業価値向上への取り組み

代表取締役社長 社長執行役員
山田 茂

P. 10 – 16

2026年度第2四半期決算 概要

常務執行役員
岩井 智樹

© COSMO ENERGY HOLDINGS

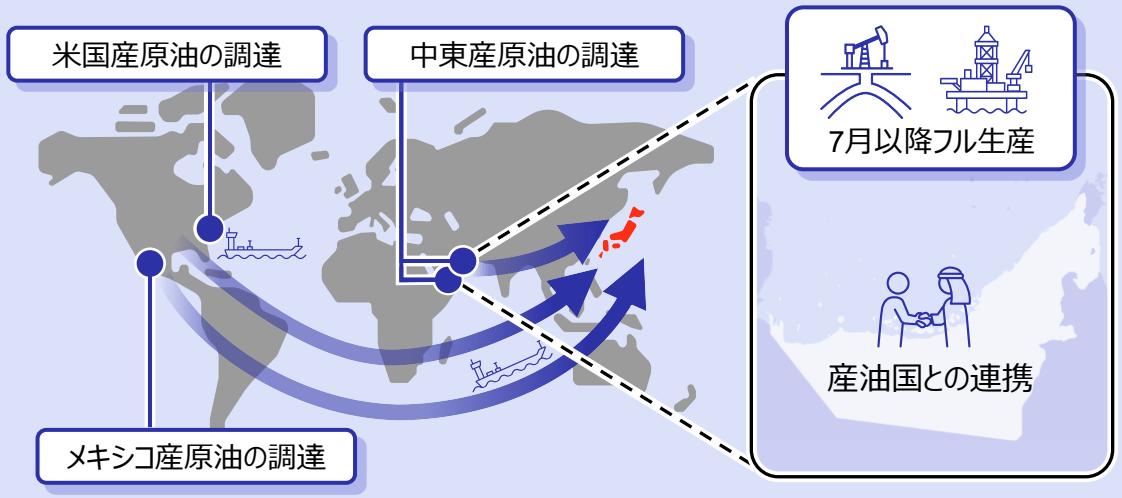
2026年度第2四半期決算 ハイライト

© COSMO ENERGY HOLDINGS

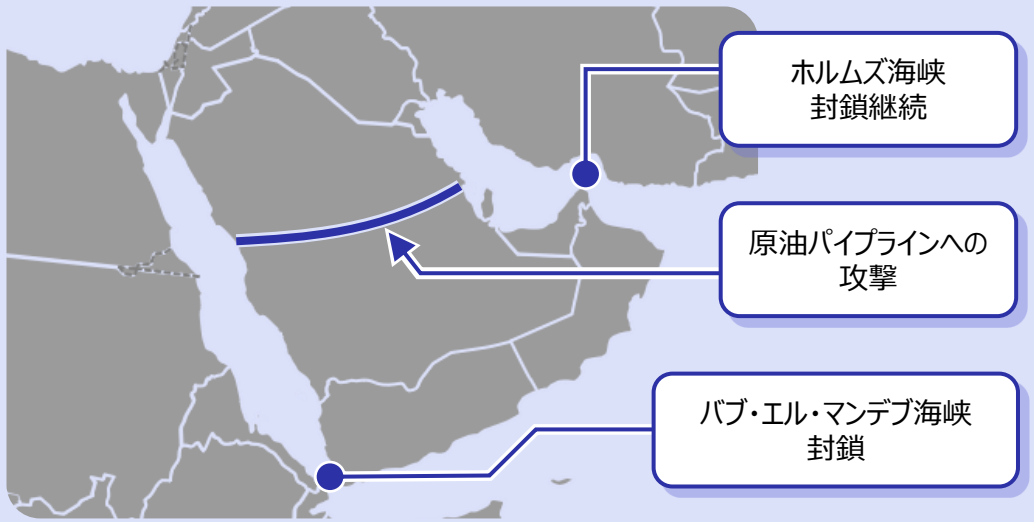
中東情勢緊迫化後の当社の取り組み

- 石油事業においては、調達ルートの多様化により原油を安定的に調達、製油所高稼働・安定供給を維持。
- 石油開発事業は、湾内販売を実施することで生産量を回復。7月以降はフル生産で推移。
- ホルムズ海峡の封鎖継続に加え、バブ・エル・マンデブ海峡の封鎖等により、供給および物流の制約が拡大。引き続き状況を注視していく。

上期



9月以降



© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 ハイライト

- 経常利益は2,322億円、在庫影響を除く経常利益は1,097億円。当期純利益は1,474億円、在庫影響を除く当期純利益は616億円。
- 上期は油価の高止まりにより、第1四半期に発生した正のタイムラグが未解消。加えて、四品外の海外市況も高水準で推移し、収益が拡大。
- 下期は油価下落に伴う負のタイムラグ等を勘案し、現時点では計画並みの着地を見込むことから、通期計画を据え置く。
- 中間配当は75円/株（年間165円/株を予定）。

単位：億円

		2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期	前年差	2026年度 通期計画
1	経常利益	**2,322**	532	1,790	**1,150**
2	当期純利益	**1,474**	236	1,238	**440**
3	（在庫影響）	**1,225**	▲ 197	1,422	**50**
4	在庫影響除き経常利益	**1,097**	729	368	**1,100**
5	在庫影響除き当期純利益	**616**	374	242	**400**
6	ドバイ原油価格 ($/B)(4-9月)	**95**	69	26	**89**
7	為替レート (¥/$)(4-9月)	**159**	146	13	**155**

		2026年度 第２四半期	2025年度 通期実績	前期末差	2026年度 通期計画
8	自己資本	**7,408**	6,062	1,346	**6,230**
9	自己資本比率	**26.8%**	27.6%	▲ 0.8%	**26.7%**
10	ネットＤ／Ｅレシオ (倍)	**0.67**	0.71	▲ 0.04	**0.88**

© COSMO ENERGY HOLDINGS

企業価値向上への取り組み

© COSMO ENERGY HOLDINGS

企業価値向上への取り組み （1）第8次連結中期経営計画の進捗

第８次中計の取り組み

石油/次世代エネルギー	精製	**製油所稼働率の最大化**
		サプライチェーンの強化
		脱炭素社会を見据えた低・脱炭素供給基盤の構築
	販売	燃料油販売高度化・モビリティサービス拡大
		脱炭素社会を見据えた低・脱炭素供給基盤の構築
	石油化学	半導体・電子部品材、熱対策材拡大 NEXTグロース
		エチレン製造装置の最適運営の推進
		化成品の収益拡大
資源開発		原油生産量最大化
		リチウム開発事業への参入（米国） NEXTグロース
電力サプライチェーン		競争力のある電源の確保・拡大
		需給調整機能の構築
		電力販売の拡大
AI・デジタル活用生産性向上・経営基盤強化		AI･デジタルによるビジネスインパクト創出
		バックオフィスリソース効率化
		主体マインド追求と挑戦行動実践

当期の主な進捗

製油所稼働率の最大化

製油所DXの進展 ▶ P.8

GE Vernova

脱炭素社会を見据えた低･脱炭素供給基盤の構築

水素サプライチェーンの構築 ▶ P.9

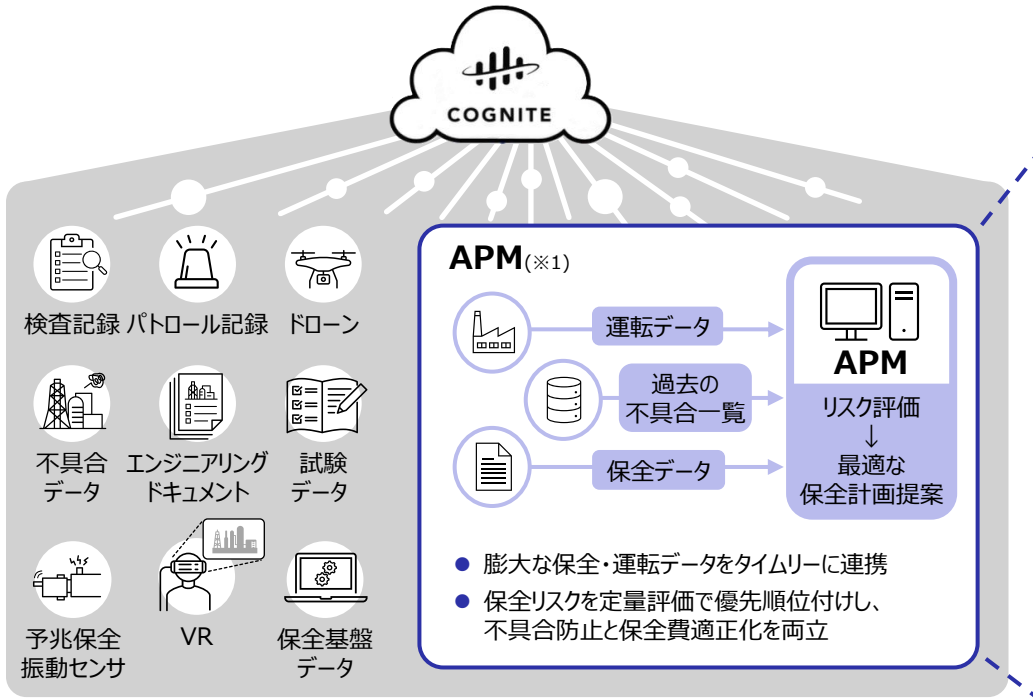
Iwatani

© COSMO ENERGY HOLDINGS

企業価値向上への取り組み （2）第8次連結中期経営計画の進捗 ～製油所稼働率の最大化～

- 米・GE Vernova社と、AI・デジタル技術を活用した設備保全の高度化に向けたMOUを締結。
- MOUに基づき、一般リリース前の新機能を製油所の保全現場で先行検証。
- 保全判断の高度化・迅速化により、設備トラブルを抑制し、製油所の安全・安定操業を強化。

製油所DXを支えるデジタル基盤



予兆保全のさらなる高度化

New! **設備リスクの把握を精緻化、保全判断を迅速化し、さらなる設備信頼性向上を実現**

COSMO × GE Vernova(※2)

実証予定の新機能

Health 2.0 実証開始	保全・運転データをAIを活用しながら横断的に分析し、保全リスクの優先順位付けを精緻化
Analytics Builder	機械学習により当社の装置運転状況を反映した独自の分析モデルを構築し、予兆保全の精度を向上
生成AI エージェント	設備保全に特化した生成AIエージェントが、膨大な保全データを活用し、分析や保全検討を効率化

（※1）APM　：Asset Performance Managementの略。
グローバルスタンダードの保全・設備信頼性業務プロセスをシステムに記憶させ、保全のビッグデータを効率的かつ効果的に管理し、網羅性・予見性・管理性を高めることができる。

（※2）GE Vernova　：米マサチューセッツ州に本社を置くグローバルエネルギー企業。エネルギー設備に関する深い知見とAI活用による高度な予兆保全技術を強みとする設備信頼性ソリューションのリーディングカンパニーであり、当社が導入しているAPMの開発・提供元。

© COSMO ENERGY HOLDINGS

企業価値向上への取り組み （３）第8次連結中期経営計画の進捗 ～水素サプライチェーンの構築～

- 岩谷産業株式会社との共同推進案件として、千葉製油所の水素製造装置の復旧を決定。
  製造した水素を当社および岩谷産業株式会社に供給。
- 当社の製油所の安定操業のさらなる強化と、岩谷産業株式会社への水素の安定供給を実現し需要拡大に対応。

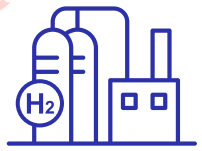
千葉製油所での製油所資産を活用した水素事業の具体化
（2030年頃の運転開始を予定）

商用車向け水素ステーションの
着実な運営と拡大

水素製造

COSMO Iwatani 共同推進

New!



千葉製油所の
水素製造装置を復旧

液化・貯蔵・出荷

COSMO 石油精製フローでの活用



常圧蒸留装置　不純物除去工程　石油製品

Iwatani 液化水素の製造



液化装置　貯蔵　出荷

コスモ岩谷水素エンジニアリング合同会社

自社・他社含めた水素プロジェクトのエンジニアリングを実現

販売

Iwatani 多様な取引先への販売



岩谷コスモ水素ステーション合同会社



平和島
2024年　開所



有明
2025年　開所



新砂
2027年頃　開所予定

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 概要

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算レビュー

- 経常利益は2,322億円、在庫影響を除く経常利益は1,097億円
- セグメント別の経常利益は下記の通り

石油事業



在庫影響除き経常利益
890億円
（前年差+ 452億円）

正のタイムラグ影響に加え、海外製品市況が堅調に推移したことにより増益。

石油化学事業



経常利益
91億円
（前年差+ 113億円）

期初在庫の影響により増益。

石油開発事業



経常利益
50億円
（前年差▲ 191億円）

中東情勢の緊迫化に伴う一時的な生産数量の減少により減益。

再生可能エネルギー事業



経常利益
▲2億円
（前年差＋ 4億円）

新規サイトの運転開始により改善。

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 連結損益の概要（前年差）

単位：億円

		2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期	前年差	2026年度 通期計画
1	売上高	**15,635**	13,338	2,297	**28,700**
2	営業利益	**2,248**	603	1,645	**1,020**
3	営業外損益	**74**	▲ 71	145	**130**
4	経常利益	**2,322**	532	1,790	**1,150**
5	特別損益	**▲ 20**	▲ 6	▲ 14	**▲ 250**
6	法人税等	**795**	250	545	**390**
7	非支配株主に帰属する当期純利益	**33**	40	▲ 7	**70**
8	親会社株主に帰属する当期純利益	**1,474**	236	1,238	**440**
9	在庫影響	**1,225**	▲ 197	1,422	**50**
10	在庫影響除き経常利益	**1,097**	729	368	**1,100**
11	在庫影響除き当期純利益	**616**	374	242	**400**
12	原油価格（ドバイ） ($/B)(4-9月)	**95**	69	26	**89**
13	為替レート (¥/$)(4-9月)	**159**	146	13	**155**
【ご参考】					
14	原油価格（ドバイ） ($/B)(1-6月) ※1	**82**	74	8	**89**
15	為替レート (¥/$)(1-6月)	**158**	149	9	**155**
16	トッパー稼働率 (CDベース) ※2	**92.8%**	91.1%	1.7%	**93.7%**
17	トッパー稼働率 (SDベース) ※2,3	**94.8%**	95.1%	▲ 0.3%	**95.1%**

（※1）石油開発事業の指標価格となるICEマーバン原油価格は2ヶ月前のドバイ価格を参照してアセスされるため、2ヶ月前のドバイ原油価格を参考として記載
例）通期決算（1-12月）の場合、前年11月－当年10月のドバイ原油価格平均を記載
（※2）当社（3製油所合計）の稼働率　（※3）SD：定期整備等の影響を除いた稼働率

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 連結経常利益の概要（前年差）

単位：億円

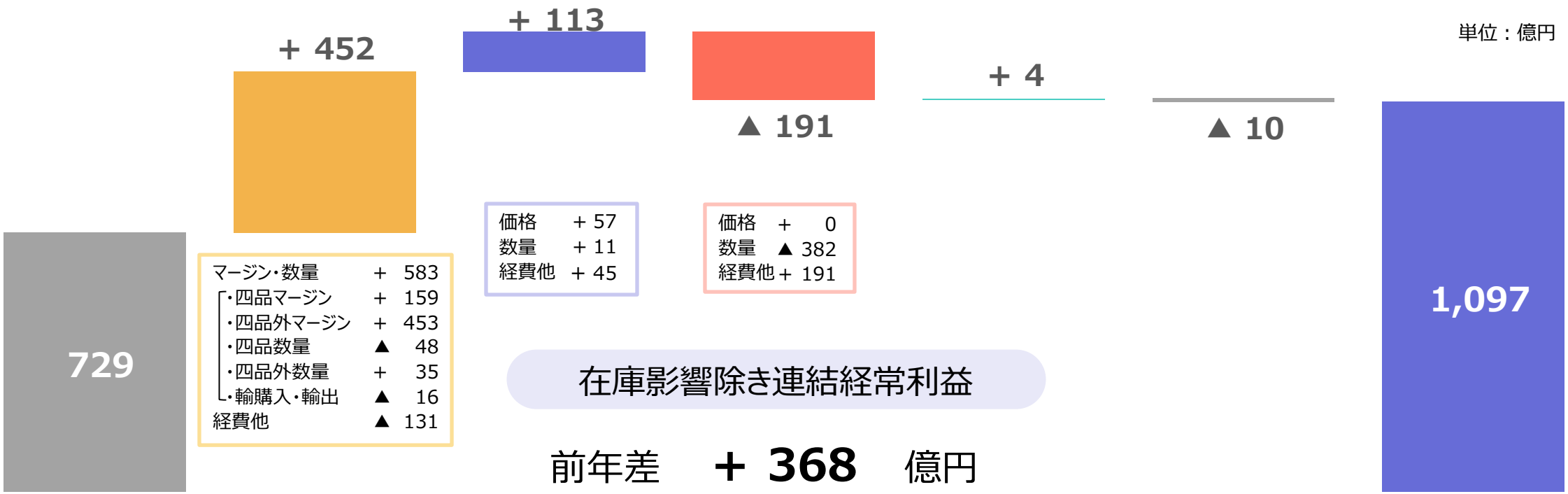
			2026年度 第２四半期		2025年度 第２四半期		前年差	
			経常利益	在庫影響除き経常利益	経常利益	在庫影響除き経常利益	経常利益	在庫影響除き経常利益
1		連結	**2,322**	**1,097**	532	729	1,790	368
2	セグメント別	石油事業	**2,115**	**890**	241	438	1,874	452
3		石油化学事業	**91**		▲ 22		113	
4		石油開発事業 （※1）	**50**		241		▲ 191	
5		再生可能エネルギー事業	**▲ 2**		▲ 6		4	
6		その他 （※2）	**68**		78		▲ 10	

（※1） 操業会社（アブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発）は12月決算　（※2） 連結処理値を含む

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 連結経常利益（在庫影響除き）前年差

単位：億円



2025年度 第２四半期	2026年度 第２四半期									
在庫影響除き経常利益		石油事業		石油化学事業		石油開発事業		再生可能エネルギー事業		その他	在庫影響除き経常利益
729	=	438	+	▲ 22	+	241	+	▲ 6	+	78	
		890	+	91	+	50	+	▲ 2	+	68	= 1,097

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 連結キャッシュ・フロー、連結貸借対照表の概要

連結キャッシュ・フロー

単位：億円

		2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期
1	営業活動によるキャッシュ・フロー	**▲ 12**	1,204
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	**▲ 66**	▲ 237
3	フリーキャッシュ・フロー （1+2）	**▲ 78**	967
4	財務活動によるキャッシュ・フロー	**43**	▲ 711
5	期末のキャッシュ残高	**807**	565

連結貸借対照表

単位：億円

		実績 （2026年9月末）	実績 （2026年3月末）	増減
1	総資産	**27,665**	21,966	5,699
2	純資産	**8,765**	7,358	1,407
3	自己資本	**7,408**	6,062	1,346
4	自己資本比率	**26.8%**	27.6%	▲ 0.8%
5	ネット有利子負債（※1）	**4,967**	4,309	658
6	ネットD／Eレシオ（倍） （※1）	**0.67**	0.71	▲ 0.04

（※1）有利子負債総額から現預金等を控除したもの

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 連結設備投資の概要

設備投資・減価償却費

単位：億円

		2026年度 第２四半期	前年差
1	設備投資	505	92
2	減価償却費	284	▲ 4

設備投資　セグメント別

単位：億円

		2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期	前年差
1	石油事業	163	242	▲ 79
2	石油化学事業	78	14	64
3	石油開発事業	194	88	106
4	再生可能エネルギー事業	49	49	0
5	その他・調整額	21	20	1
6	**合計**	**505**	**413**	**92**
7	投資有価証券等	3	2	1

© COSMO ENERGY HOLDINGS

補足情報　目次

P. 18 – 25

2026年度第2四半期決算 関連データ

- セグメント別実績　（前年差）
- 各事業の主要データ
- 販売数量、トッパー稼働率
- 原油生産数量、確認埋蔵量・推定埋蔵量
- 原油価格・為替市況
- ガソリン・軽油 国内／海外マージンの推移
- 石油化学市況

P. 26 – 30

2026年度通期計画の概要（2026年5月既公表）

- 2026年度通期計画 概要
- 2026年度通期計画 前提条件、感応度
- 2026年度通期計画 在庫影響除き連結経常利益（前年差）

P. 31 – 38

コスモエネルギーグループの概要

- 石油事業、石油化学事業、石油開発事業、再生可能エネルギー事業

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 関連データ

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 セグメント別実績（前年差）

2026年度第2四半期実績（前年差）

単位：億円

		売上高		営業利益		経常利益		経常利益（在庫影響除き）	
		実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差
1	石油事業	14,038	2,223	2,072	1,849	2,115	1,874	890	452
2	石油化学事業	2,100	355	88	110	91	113	91	113
3	石油開発事業	280	▲ 374	7	▲ 314	50	▲ 191	50	▲ 191
4	再生可能エネルギー事業	70	9	▲ 2	4	▲ 2	4	▲ 2	4
5	その他・調整額	▲ 853	84	83	▲ 4	68	▲ 10	68	▲ 10
6	合計	15,635	2,297	2,248	1,645	2,322	1,790	1,097	368

グループ会社

石油事業	コスモ石油、コスモ石油マーケティング、コスモ石油販売、コスモ石油ルブリカンツ、コスモエネルギーソリューションズ、ジクシス（持分法適用会社）、キグナス石油（持分法適用会社）ほか
石油化学事業	コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学 ほか
石油開発事業	コスモエネルギー開発、アブダビ石油、Cosmo E&P Albahriya 、カタール石油開発、合同石油開発（持分法適用会社）ほか
再生可能エネルギー事業	コスモエコパワー 、CSDソーラー ほか
その他	コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス ほか

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 各事業の主要データ

					21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度2Q
1	石油事業	(1)	製油所　稼働率	トッパー（CDベース）（※1）	95.4%	97.8%	87.9%	88.4%	91.2%	**92.8%**
		(2)	SS数	販社（※2）	872	880	867	867	861	**857**
				特約店	1,823	1,769	1,735	1,679	1,643	**1,615**
				SS計（※3）	2,695	2,649	2,602	2,546	2,504	**2,472**
				うちセルフSS数（※3）	1,112	1,121	1,128	1,133	1,148	**1,149**
		(3)	コスモ・ザ・カード有効会員数	コスモ・ザ・カード（万枚）（※3）	403	384	362	359	366	**366**
			コスモMyカーリース累計契約台数	コスモMyカーリース（台）（※3）	96,214	108,104	119,737	131,891	144,063	**149,584**
			【コスモの公式】アプリ総DL数	【コスモの公式】アプリ（万DL）（※3）	472	595	726	929	1,216	**1,371**
2	石油開発事業	原油生産数量		ｺｽﾓｴﾈﾙｷﾞｰ開発株式会社（B/D）（※4,5）	45,157	42,430	36,718	39,474	43,330	**20,652**
3	再生可能エネルギー事業	風力発電設備容量		設備容量（MW）（※3）	300	247	295	320	353	**348**
				売電量（百万kWh）	595	553	643	590	716	**274**

（※1）各年度 4-3月実績　（※2）当社100%出資子会社における直営SSならびに販売店SS　（※3）各年度 3月末時点　（※4）各年度 1-12月実績
（※5）22年度まではアブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の合計、23年度以降はアブダビ石油、合同石油開発の合計

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 販売数量、トッパー稼働率

単位：千KL

			2026年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年比	2026年度 通期計画	前年比
1	内需燃料油	ガソリン	3,712	3,810	97.4%	7,273	99.2%
2		灯油	346	374	92.6%	1,753	99.1%
3		軽油	2,715	2,758	98.5%	5,488	98.9%
4		A重油	656	694	94.6%	1,476	97.4%
5		四品計	7,430	7,635	97.3%	15,990	98.9%
6		ナフサ	1,866	2,507	74.4%	4,900	106.1%
7		ジェット	246	253	97.1%	436	85.2%
8		C重油	236	269	87.7%	504	91.0%
9		計	9,777	10,665	91.7%	21,830	99.9%
10	外需燃料油	中間留分輸出	298	-	-	450	308.5%
11		保税販売他	1,539	1,425	108.0%	2,396	79.3%
12		(内 ジェット)	1,152	1,072	107.4%	2,075	98.9%
13		計	1,837	1,425	128.9%	2,846	89.9%
14	合計		11,614	12,090	96.1%	24,676	98.6%

			2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期	前年比
15	トッパー稼働率	(CD) (※1)	92.8%	91.1%	1.7%
16		(SD) (※1、2)	94.8%	95.1%	▲ 0.3%

（※1）当社（3製油所合計）の稼働率、（※2）SD：定期整備等の影響を除いた稼働率

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度第2四半期決算 原油生産数量、確認埋蔵量・推定埋蔵量

			2026年度 第２四半期	2025年度 第２四半期	前年差	
1	原油生産数量	コスモエネルギー開発株式会社（B/D）	20,652	44,278	▲ 23,626	46.6%

※生産数量は、アブダビ石油・合同石油開発の生産数量合計。
※各社12月決算会社（例：通期決算の場合、1-12月の合計生産量）
※コスモエネルギーグループの出資比率 … アブダビ石油64.4%、合同石油開発50.0%

			百万BBL
2	原油埋蔵量評価（当社権益分）（※1）（2025年12月31日現在）	確認埋蔵量（※2）と推定埋蔵量（※3）の合計	137.3
		（参考　：　確認＋推定埋蔵量の可採年数）	約16年

（※１）原油埋蔵量評価の結果について

当社の将来の収益へ及ぼす影響が大きいと考えられるアブダビ石油の埋蔵量につきましては、原油埋蔵量に関する独立評価会社としては世界有数の会社であるGaffney, Cline & Associates（以下、GCA）による第三者評価を受けております。同評価は、当社関連会社が独自に実施した埋蔵量の自社内部評価をGCAが確認する形で実施されております。この評価は、SPE（Society of Petroleum Engineers 石油技術者協会）のOil and Gas Reserves Committee（原油・ガス埋蔵量委員会）が作成し、WPC（World Petroleum Congress 世界石油会議）、AAPG (American Association of Petroleum Geologists 米国石油地質技術者協会)およびSPEE (Society of Petroleum Evaluation Engineers 石油評価技術協会)により検討・共同策定された基準（2007 PRMS(Petroleum Resources Management System)）に従い、実施されております。 合同石油開発の埋蔵量評価に関しては、独自に実施した自社評価となります。なお、原油埋蔵量評価は、当社が埋蔵量又は原油回収量を保証するものではありません。

（※２）確認埋蔵量とは

確認埋蔵量とは、地質学的、工学的データの解析により、ある時点以降に既知の貯留層から現状の経済条件、操業方法と規制の下で商業的に回収されることが合理的確実さをもって予想される石油の量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認埋蔵量が回収できる確率が、90%以上なければならない、とされています。（SPE PRMS 2007年3月 定義）

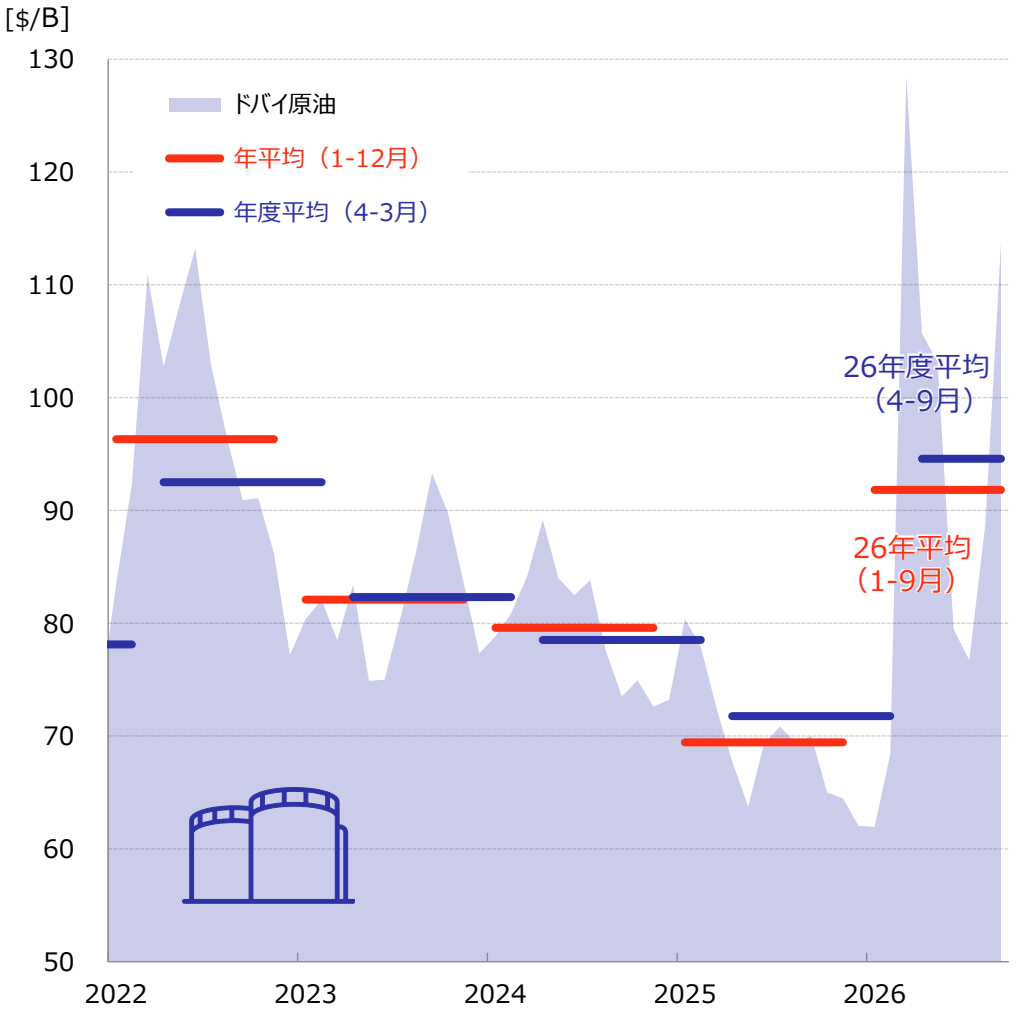
（※３）推定埋蔵量とは

地質学的、工学的データの解析により、おそらく回収できると考えられる未確認埋蔵量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認＋推定埋蔵量が回収できる確率が、50%以上なければならない、とされています（SPE PRMS 2007年3月 定義）

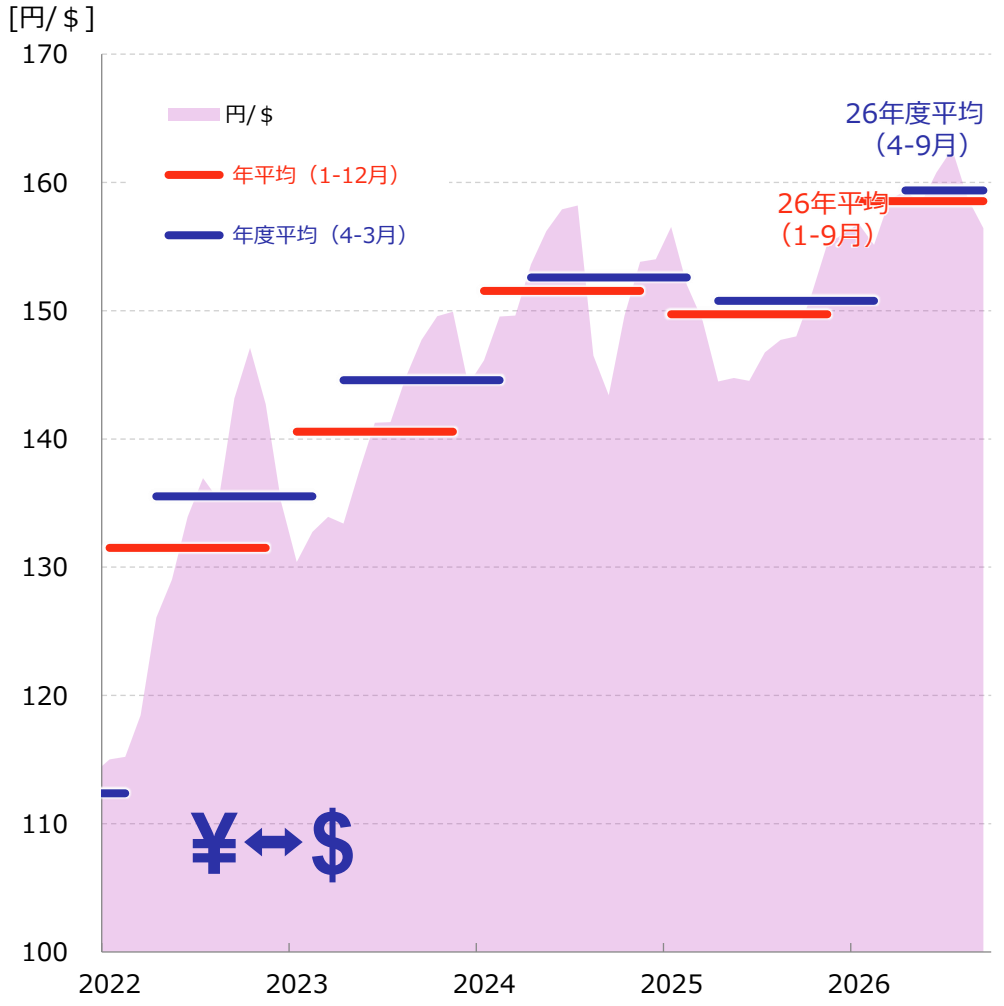
© COSMO ENERGY HOLDINGS

原油価格・為替市況

ドバイ原油市況



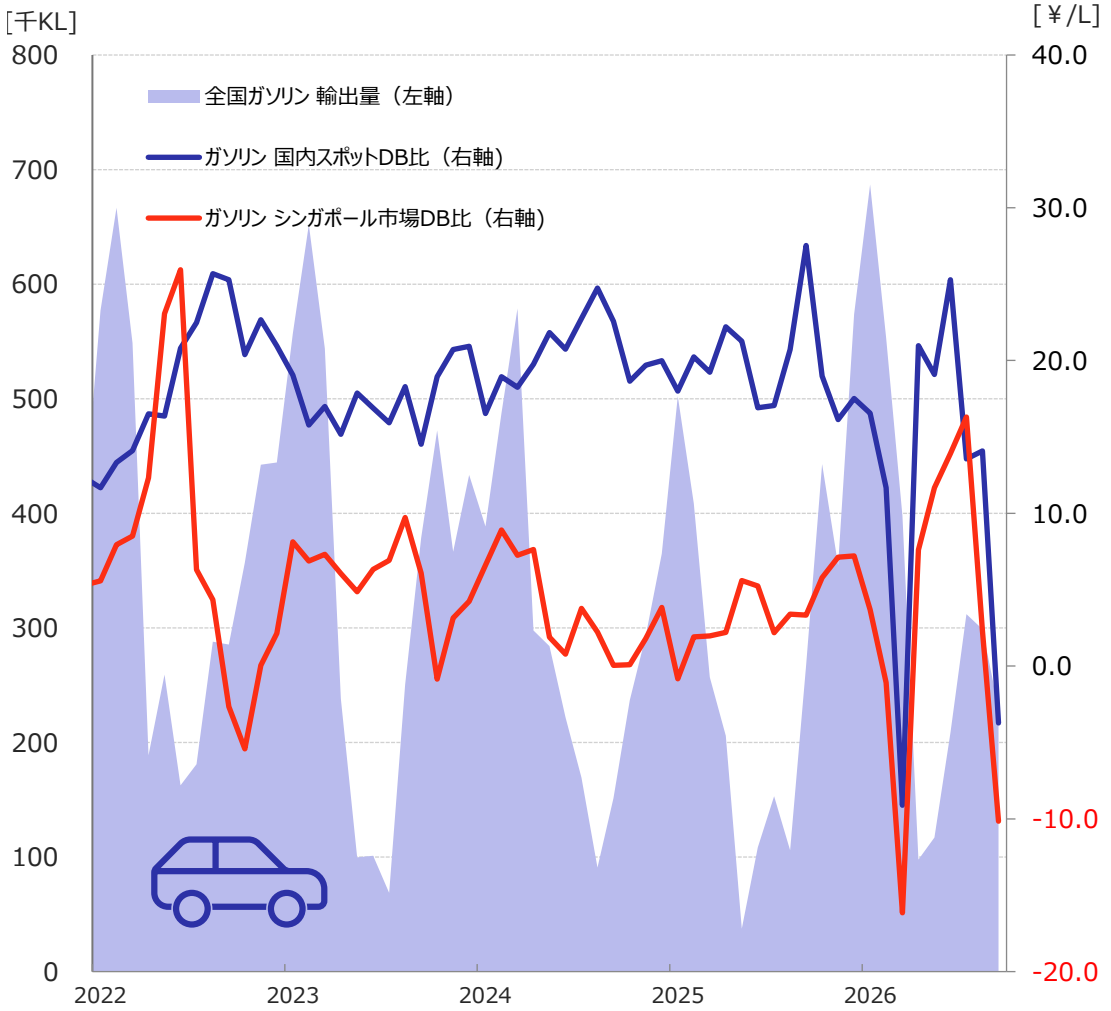
為替市況



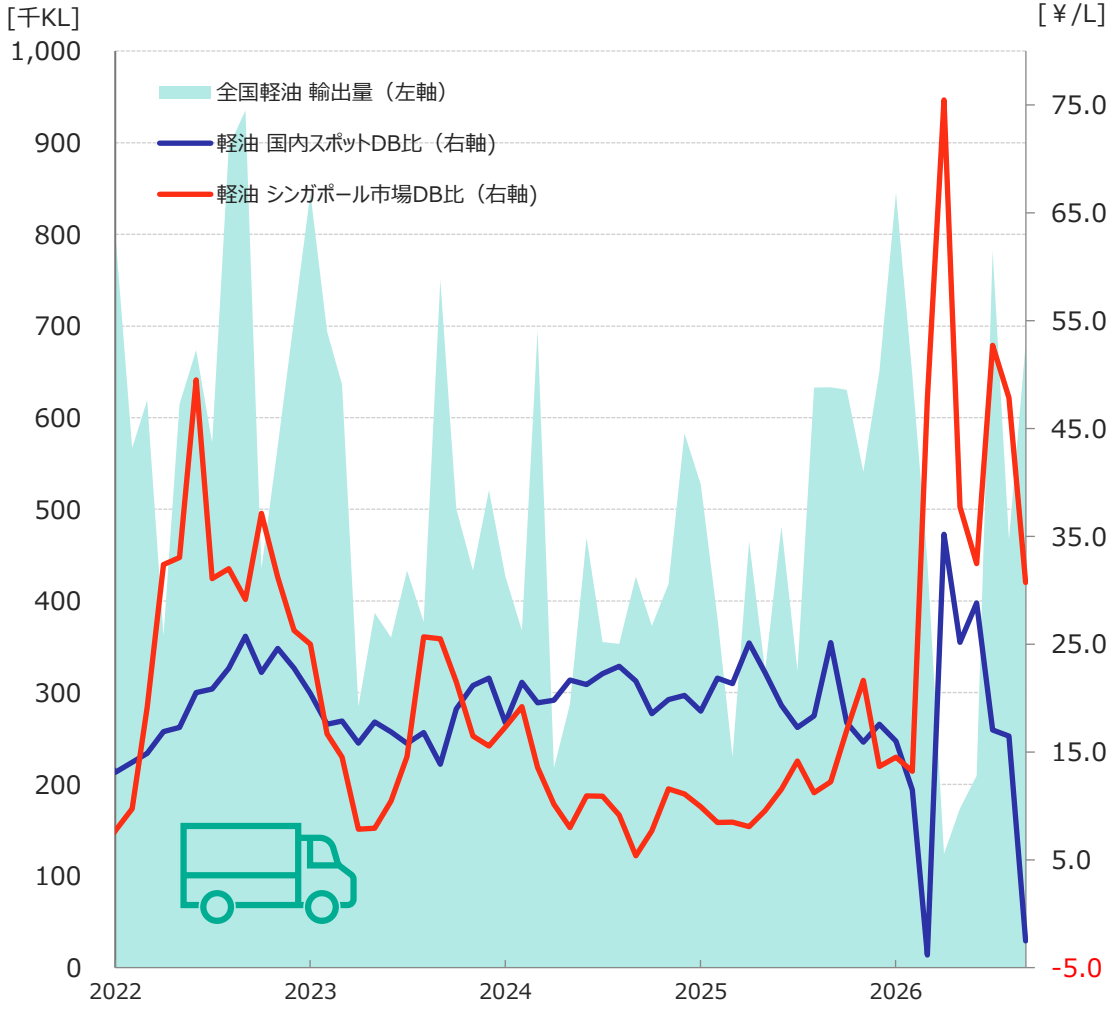
© COSMO ENERGY HOLDINGS

ガソリン・軽油 国内／海外マージンの推移

ガソリン　国内/海外マージンの推移

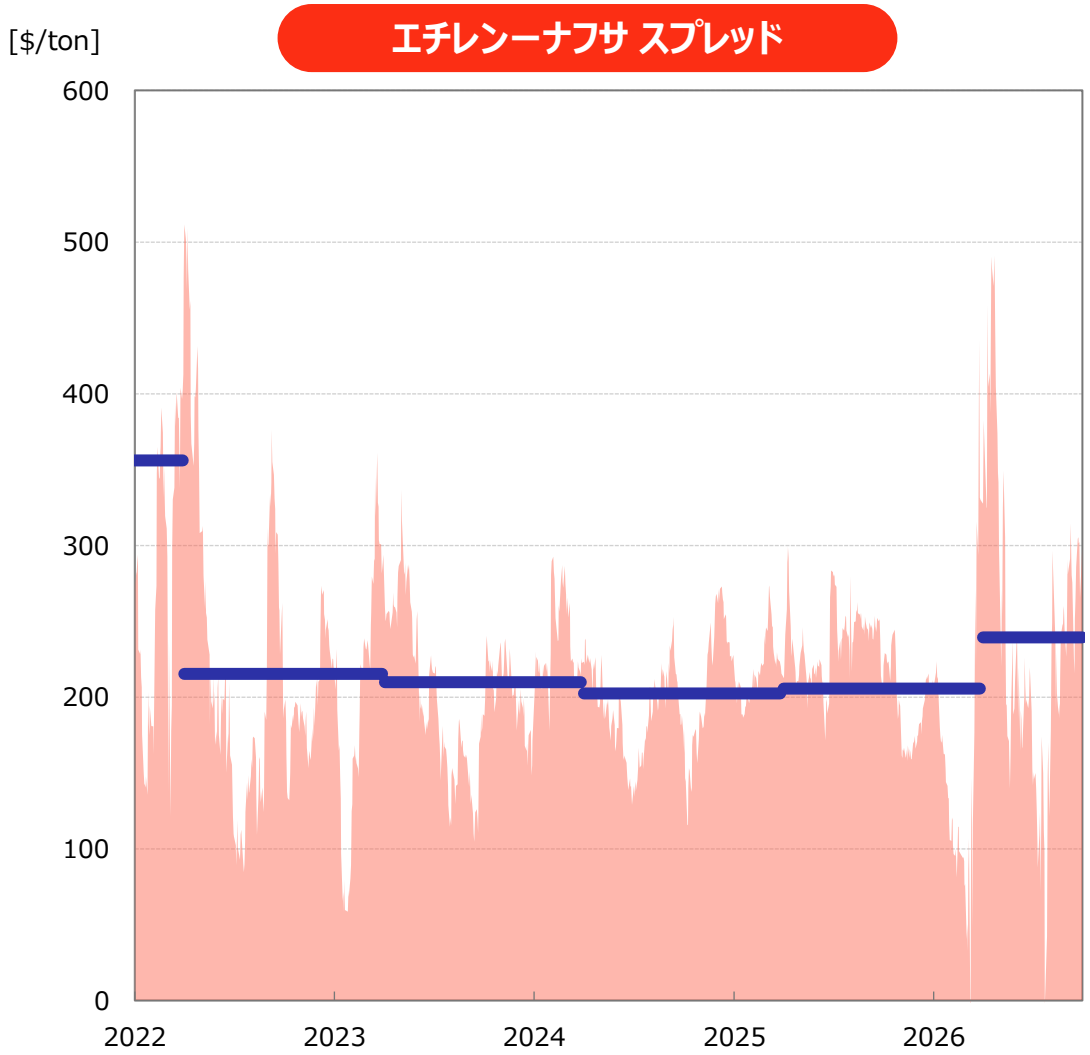


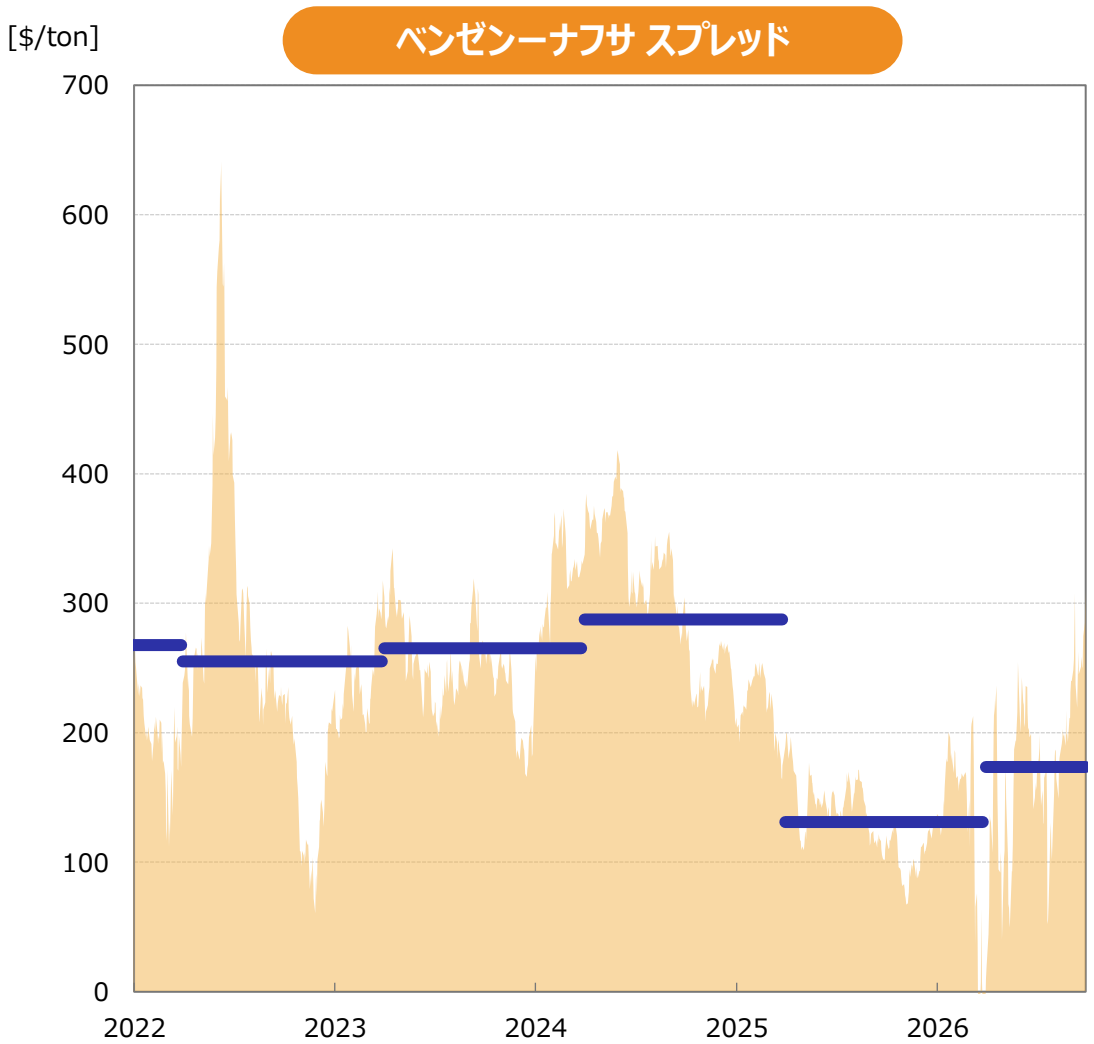
軽油　国内/海外マージンの推移



© COSMO ENERGY HOLDINGS

石油化学市況





※ 横線は各年（4-3月）の平均値

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度通期計画の概要

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度通期計画 概要

- 経常利益は1,150億円、在庫影響を除く経常利益は1,100億円
- セグメント別の経常利益は下記の通り

石油事業



在庫影響除き経常利益
560億円
（前年差▲ 368億円）

負のタイムラグ影響を主因に減益を見込む。
国内市況は保守的な想定とするが、安定供給の取り組みによる
追加コストは販売価価格への反映を進める。

石油化学事業



経常利益
10億円
（前年差+ 41億円）

海外市況は低調な環境が継続する見通しであるものの、
輸出数量の減少により収益の改善を見込む。

石油開発事業



経常利益
380億円
（前年差▲ 273億円）

高水準の原油価格が収益下支え要因となる一方、
ホルムズ海峡封鎖に伴う生産制約で販売数量が減少し、
前年差で減益を見込む。

再生可能エネルギー事業



経常利益
30億円
（前年差+ 2億円）

インフレ影響を織り込みつつ、陸上風力を中心に安定収益を見込む。

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度通期計画 連結経常利益の概要（前年差）

単位：億円

			2026年度 通期計画		2025年度 通期実績		前年差	
			経常利益	在庫影響除き経常利益	経常利益	在庫影響除き経常利益	経常利益	在庫影響除き経常利益
1		連結	1,150	1,100	1,492	1,657	▲ 342	▲ 557
2	セグメント別	石油事業	610	560	763	928	▲ 153	▲ 368
3		石油化学事業	10		▲ 31		41	
4		石油開発事業（※1）	380		653		▲ 273	
5		再生可能エネルギー事業	30		28		2	
6		その他（※2）	120		79		41	
7		在庫影響	50		▲ 165		215	
8		親会社株主に帰属する当期純利益	440		740		▲ 300	
9		在庫影響除き当期純利益（※3）	400		855		▲ 455	

（※1）操業会社（アブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発）は12月決算、（※2）連結処理値を含む、（※3）在庫影響は税額相当として30%を控除のうえ計算

		2026年度 通期計画	2025年度 通期実績	前年差
10	一株あたり年間配当（予定）	165円	- ※4 (株式分割後換算 165円)	- (株式分割後換算 ±0円)

（※4）2025年10月1日（水）を効力発生日として、株式分割（2分割）を実施。年間の１株当たり配当金予想については、株式分割の実施により単純計算ができないため、「―」で表示。但し、1株あたりの年間配当は株式分割後換算で165円と実質的な変更はない。

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度通期計画 前提条件、感応度

前提条件・感応度

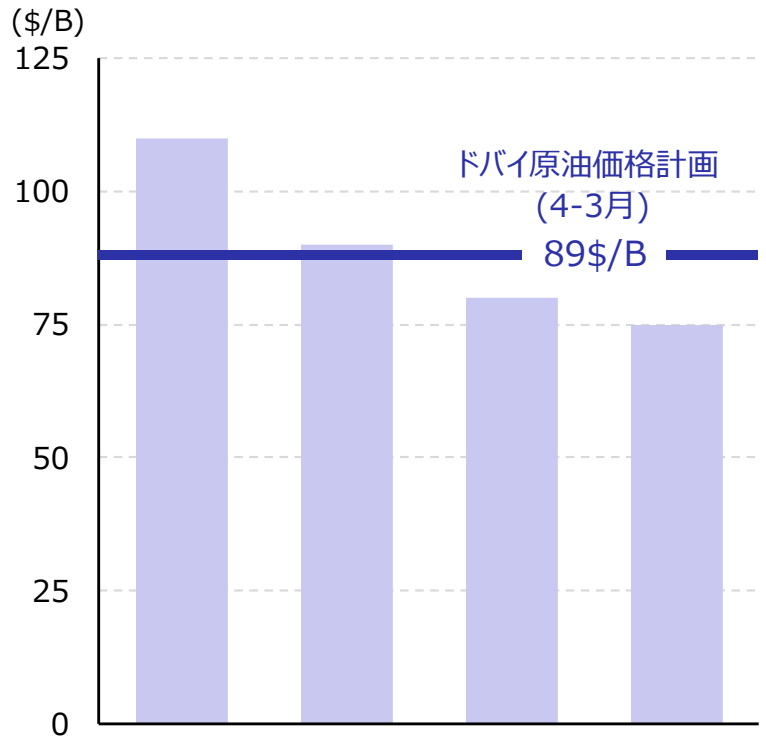
	■ 前提条件	2026年度 通期計画	2025年度 通期実績	前年差
1	ドバイ原油価格 （$/B）（4-3月）	89	72	17
2	為替レート （¥/$）（4-3月）	155	151	4
3	（参考）ドバイ原油価格 （$/B）（1-12月）（※）	89	71	18
4	（参考）為替レート （¥/$）（1-12月）	155	150	5

石油開発事業の指標価格となるICEマーバン原油価格は2ヶ月前のドバイ価格を参照してアセスされるため、
2ヶ月前のドバイ原油価格を参考として記載
例）通期決算（1-12月）の場合、前年11月－当年10月のドバイ原油価格平均を記載

	■ 経常利益 感応度（通期）		原油価格（ドバイ）	為替
5	石油事業	在庫影響	+30億円	+17億円
6		精製用燃料費他	▲ 8億円	▲ 6億円
7		計	+22億円	+11億円
8	石油開発事業		+8億円	+10億円

※感応度は原油価格＋1$/Bあたりの影響額および為替＋1円/$あたりの影響額。
但し、石油開発事業は生産正常化後の感応度。

通期計画におけるドバイ原油価格 想定

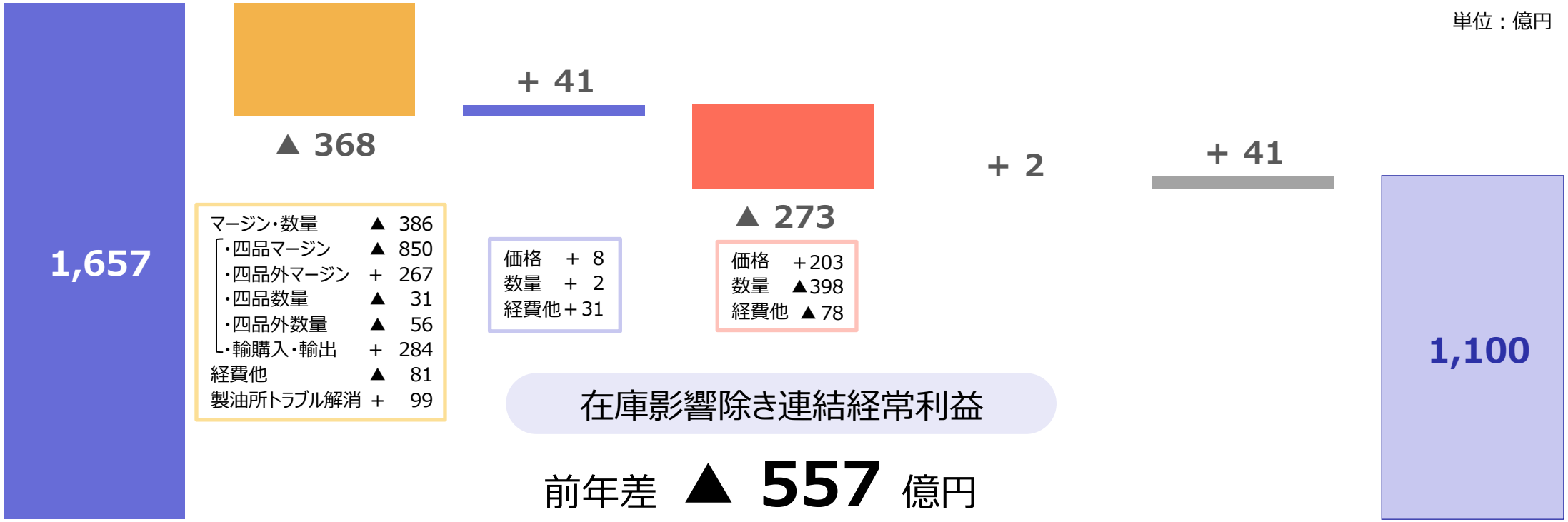


第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2026年度 通期計画
110	90	80	75	89

© COSMO ENERGY HOLDINGS

2026年度通期計画 在庫影響除き連結経常利益（前年差）

単位：億円



2025年 通期実績	2026年度 通期計画										
在庫影響除き経常利益	石油事業		石油化学事業		石油開発事業		再生可能エネルギー事業		その他		在庫影響除き経常利益
1,657	= 928	＋	▲ 31	＋	653	＋	28	＋	79		
	560	＋	10	＋	380	＋	30	＋	120	=	1,100

© COSMO ENERGY HOLDINGS

コスモエネルギーグループの概要

© COSMO ENERGY HOLDINGS

コスモエネルギーグループの概要

セグメント	石油事業	石油化学事業	石油開発事業	再生可能エネルギー事業	その他事業・連結処理含む	連結 ※2
売上高 ※1	23,856 億円	3,328 億円	1,304 億円	165 億円	▲ 1,877 億円	**26,776 億円**
経常利益 ※1	763 億円	▲ 31 億円	653 億円	28 億円	79 億円	**1,492 億円**
経常利益 ※1（在庫影響除き）	928 億円	▲ 31 億円	653 億円	28 億円	79 億円	**1,657 億円**
主な資産	●原油処理能力※5 40万バレル/日 （国内シェア 12.9%） ●国内販売量※1 内需燃料油 21,848千KL ●国内SS数※4 2,472 ヶ所 ●コスモ・ザ・カード会員数※4 366万枚 ●【コスモの公式】アプリ※4 総DL数 1,371万DL ●コスモMyカーリース※4 累計契約台数 149,584台	●オレフィン製品 生産能力※4 エチレン 129万t/年 ●アロマ製品 生産能力※4 ベンゼン 48.5万t/年 ミックスキシレン 61.8万t/年	●パートナーシップ 約50年にわたる産油国との強固な信頼関係 ●オペレーターシップ（自社操業） 中東地域において日系企業のオペレーター会社としては最大規模 ●原油生産量※1 約4.3万バレル/日 （原油処理能力比 約11%） ●原油埋蔵量（確認・推定）※3 137.3百万バレル （約16年分の供給量相当）	●風力発電設備容量※4 348MW （国内第3位/国内シェア6%※3） ●太陽光発電設備容量※4 15MW		●企業認知率 94% ※外部調査会社による全国一般生活者 16～69歳の男女2,000名への調査（2025年9月時点）
グループ会社	●コスモ石油 ●コスモ石油マーケティング ●コスモ石油販売 ●コスモ石油ルブリカンツ ●コスモエネルギーソリューションズ ●ジクシス（持分法適用会社） ●キグナス石油（持分法適用会社） ほか	●丸善石油化学（千葉/四日市） ●コスモ松山石油 ●CMアロマ（千葉） ほか	●コスモエネルギー開発 ●アブダビ石油 （UAE） ●カタール石油開発（カタール） ●合同石油開発（UAE/カタール） ●Cosmo E&P Albahriya (UAE) ほか	●コスモエコパワー（風力発電） ●CSDソーラー（太陽光） ほか	●コスモエンジニアリング ●コスモトレードアンドサービス ほか	

（※1）2025年度実績（※2）連結処理を含む（※3）2025年12月31日時点（※4）2026年9月30日時点（※5）2026年4月1日時点

© COSMO ENERGY HOLDINGS

石油事業 概要

- 大都市圏に立地する3製油所体制にて安全操業・安定供給を実施
- 坂出製油所の閉鎖(2013年度)、キグナス石油への供給開始(2019年度)により、販売に対して生産が少ない「ショートポジション」を確立
- 製油所高稼働の維持により、石油事業を中心とした稼ぐ力が格段に向上

製油所概要



原油処理能力
40.0万バレル/日

四日市製油所
8.6万バレル/日

千葉製油所
21.4万バレル/日

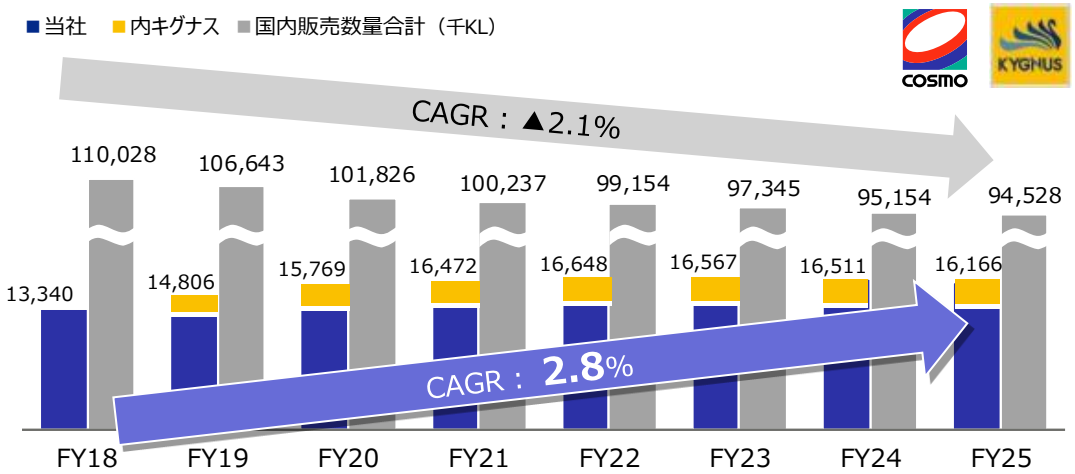
ENEOS千葉製油所と
コスモ石油千葉製油所を
結ぶパイプライン完成
（2018年～）

堺製油所
10.0万バレル/日

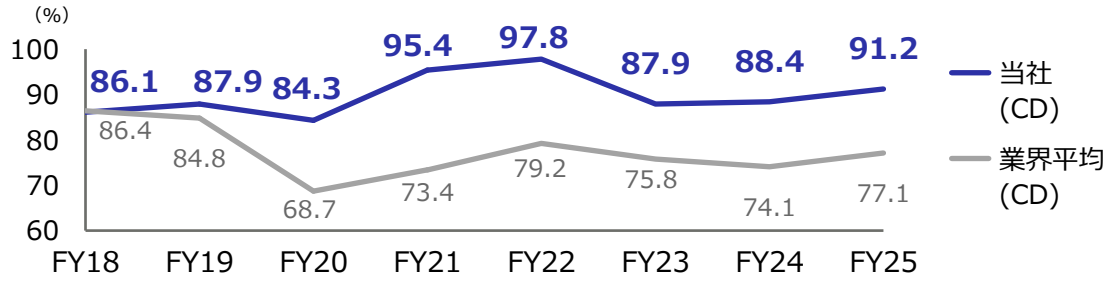
2次装置投資による競争力強化
- 2010年コーカー稼働開始
- 製品付加価値向上

IMO対応に伴いコーカー能力を増強
（2019年10月）
29,000→**31,000**バレル/日

石油製品需要とコスモ販売数量の推移



製油所高稼働の維持



© COSMO ENERGY HOLDINGS

データサイエンスを用いたマーケティングの高度化

- 自社の豊富な顧客データに加え、異業種パートナーとデータを連携
- 充実した顧客基盤をもとに広範な顧客ニーズに応える
- 2026年6月に「アプリ給油設定機能※」をリリース。給油時の操作を簡素化することで、公式アプリの利便性をさらに向上

【コスモの公式】アプリのリニューアル



- 燃料油、電力やモビリティサービスなど包括的に顧客体験を提供するアプリとしてリニューアル
- 各種サービスをホーム画面に集約し利便性を向上

顧客データのマーケティング活用

豊富な顧客データ

【コスモの公式】アプリ
総DL数
1,371万DL（※）

コスモ・ザ・カード会員数
366万枚（※）

（※） 2026年9月末時点

×

異業種パートナーのデータ

docomo　Rakuten
d POINT　R POINT
イオンフィナンシャルサービス
WAON POINT

自社で蓄積してきた基本データに加え異業種パートナーの外部データを連携

- マーケティングサイエンスを用いて、顧客の行動（シナリオ）を可視化
- シナリオに沿って自動かつ顧客個人単位で、最適なタイミング・チャネルでの訴求を実現
- 燃料油だけでなく、コスモMyカーリースやコミっと車検、コスモでんき等多岐にわたり顧客体験と購買率を向上

（※）アプリ上で給油条件を事前に設定することで、店頭での給油時の操作を簡素化する機能

© COSMO ENERGY HOLDINGS

基礎化学品概要

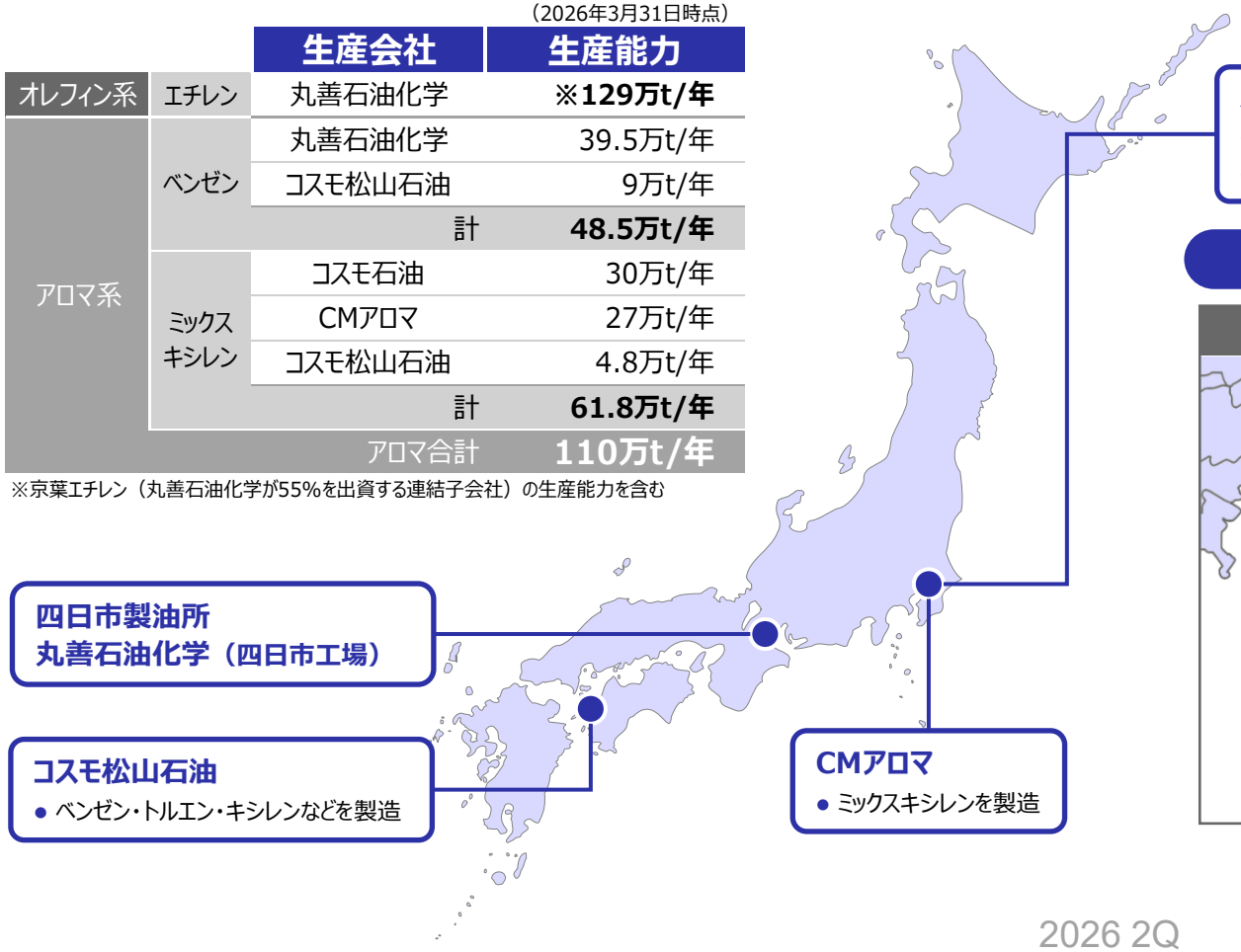
- 首都圏近接のコンビナート立地と国内最大規模のエチレン生産能力を基盤としたコスト競争力
- 千葉地区でエチレン生産最適化のため生産設備の集約を決定。稼働率向上と固定費削減で収益最大化を追求

当社グループの生産体制・特徴

（2026年3月31日時点）

		生産会社	生産能力
オレフィン系	エチレン	丸善石油化学	**※129万t/年**
アロマ系	ベンゼン	丸善石油化学	39.5万t/年
		コスモ松山石油	9万t/年
		計	**48.5万t/年**
	ミックスキシレン	コスモ石油	30万t/年
		CMアロマ	27万t/年
		コスモ松山石油	4.8万t/年
		計	**61.8万t/年**
		アロマ合計	**110万t/年**

※京葉エチレン（丸善石油化学が55%を出資する連結子会社）の生産能力を含む



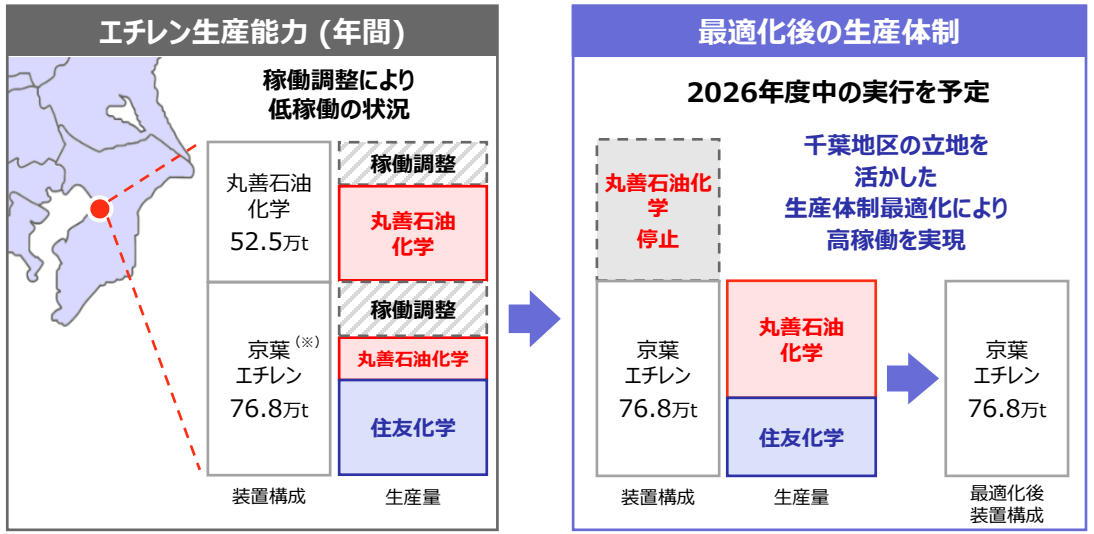
四日市製油所
丸善石油化学（四日市工場）

コスモ松山石油
- ベンゼン・トルエン・キシレンなどを製造

CMアロマ
- ミックスキシレンを製造

丸善石油化学（千葉工場）
- 世界最大級の京葉コンビナート内に立地
- 国内最大規模のエチレン生産能力
- 競争力の高い装置を高稼働させる
- 石油精製(コスモ石油)とのシナジー追求

生産体制の最適化



（※）出資比率　- 丸善石油化学　55%
- 住友化学　45%

© COSMO ENERGY HOLDINGS

化成品、機能化学品概要

- 世界トップクラスのMEK生産能力(17万t/年)を保有。コスト競争力が高く、国内メーカーへの供給のみならず世界各国への輸出を展開
- 半導体の製造工程で使用するフォトレジスト用樹脂において、丸善石油化学は世界トップクラスのシェアを誇る
- フォトレジスト用樹脂は開発型受注生産かつ生産難易度が高いため代替商品がなく参入障壁が高い

化成品

- ナフサ分解から、あらゆる産業の基礎となる各種化学品を製造・販売
- 塗料・接着剤の原料となるMEK（メチルエチルケトン）の生産能力は世界トップクラス





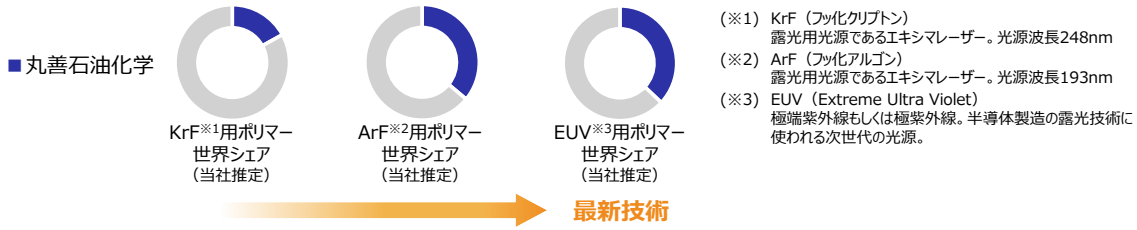
ナフサ → ブチレン → MEK

- 塗料溶剤
- 印刷インキ
- 接着剤

機能化学品の事業拡大（半導体向けフォトレジスト用樹脂の拡大）

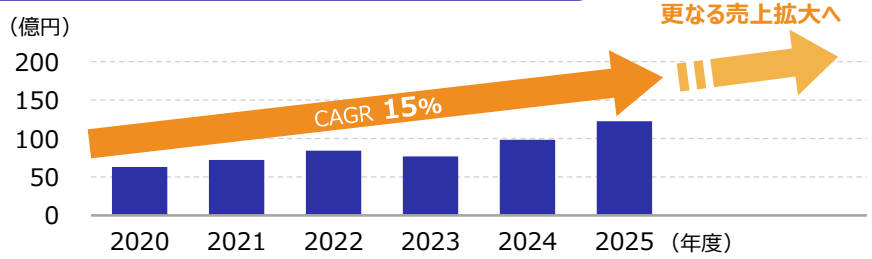
- ArF製造装置の能力増強、KrF製造装置の能力増強
- 将来的な高付加価値製品の強化を見据え、次世代EUV向けポリマーの試作品製造装置を新設 (2026年度中の完成予定)

フォトレジスト用樹脂シェア



（※1）KrF（フッ化クリプトン）露光用光源であるエキシマレーザー。光源波長248nm
（※2）ArF（フッ化アルゴン）露光用光源であるエキシマレーザー。光源波長193nm
（※3）EUV（Extreme Ultra Violet）極端紫外線もしくは極紫外線。半導体製造の露光技術に使われる次世代の光源。

半導体向けフォトレジスト用樹脂の売上推移



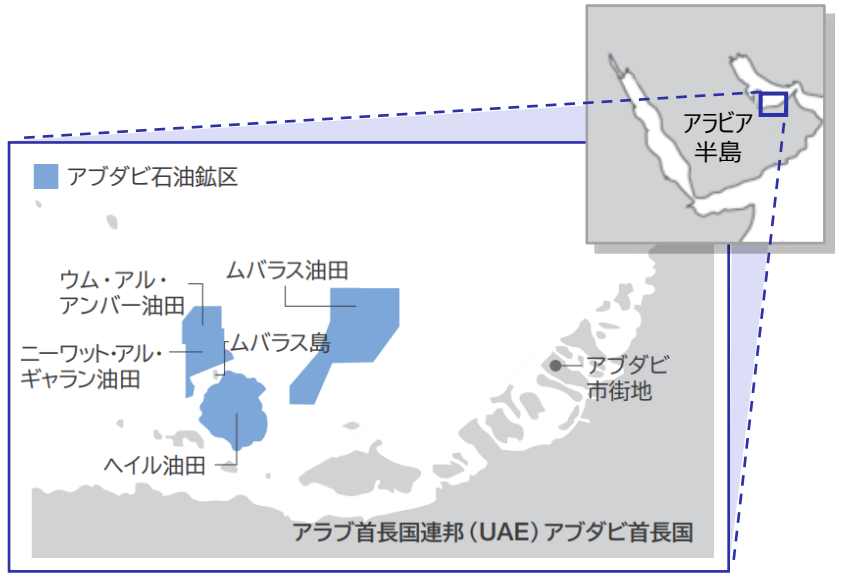
© COSMO ENERGY HOLDINGS

石油開発事業　概要

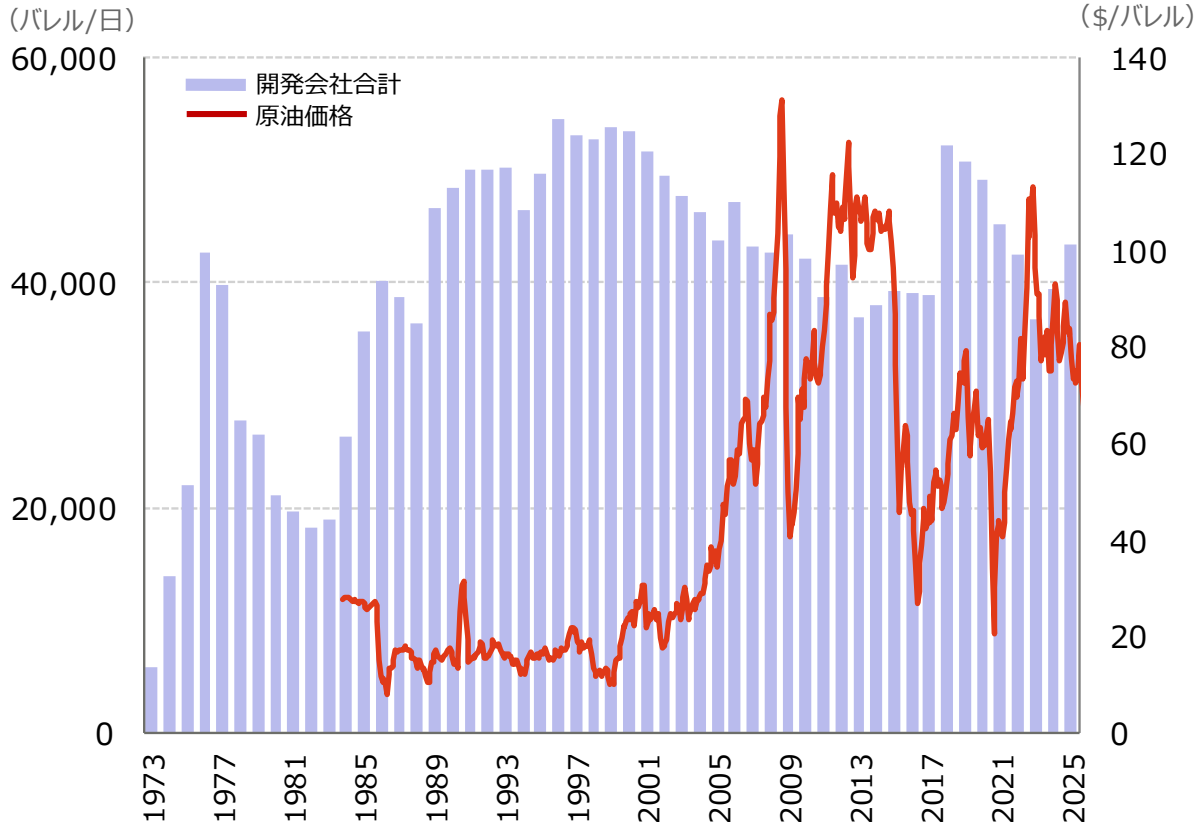
- 50年の安定生産を基盤としたアブダビとの信頼関係をベースに、低リスク・低コスト開発を実現
- アブダビ石油は2012年の権益延長(30年)と共に、既存3油田と同規模のヘイル鉱区を取得

コスモエネルギーグループの石油開発部門

	ADOC	QPD	UPD	
所在国	（UAE）	（カタール）	（UAE）	（カタール）
当社保有割合	64.4%	100%	50%	
設立年	1968	1997	1970	



コスモエネルギーグループの原油生産量



（※）2022年度までは、3社合計（アブダビ石油、合同石油開発、カタール石油開発）
2023年度以降は2社合計（アブダビ石油、合同石油開発）

© COSMO ENERGY HOLDINGS

再生可能エネルギー事業　概要

- 風力発電事業(1997年創業) のパイオニアであるエコ・パワー(現コスモエコパワー)を2010年にグループ化
- 開発、建設、運営、メンテナンスをグループ内で実施することで高いレベルの利用可能率(90%以上)を実現
- 風力発電のみならず、蓄電ビジネスの実証など、発電から販売までの電力サプライチェーン構築へ

コスモエコパワー社概要



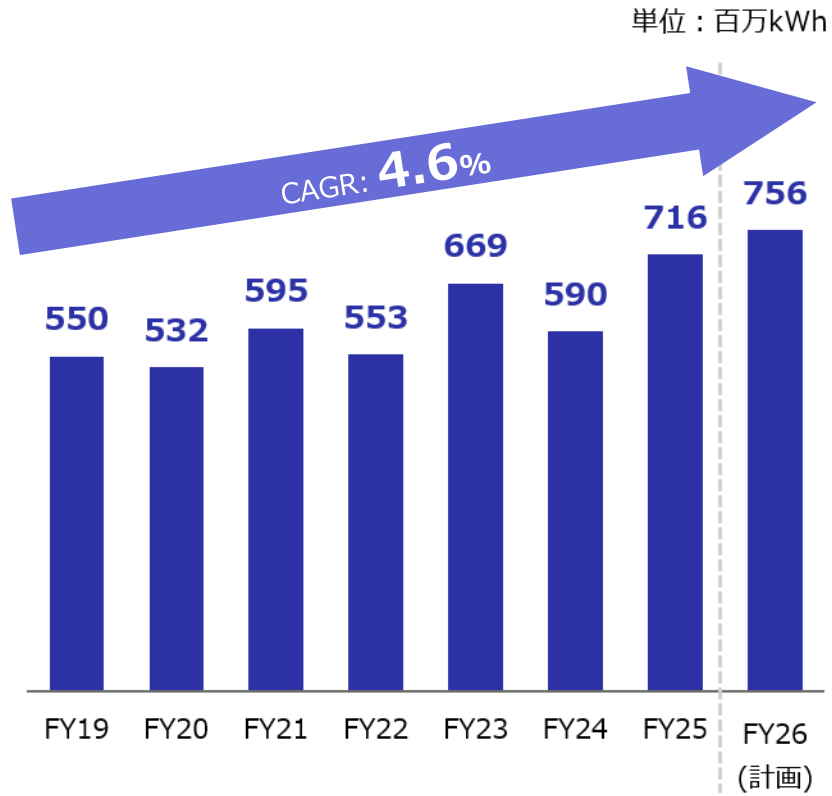
資本金	71億円
設備容量	348MW ※1
業界シェア	約6% ※2

※1 2026年9月末時点　※2 2025年12月末時点





売電量推移



© COSMO ENERGY HOLDINGS

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本書の記述および記載された情報は、「将来の見通しに関する情報」（準拠する日本の証券法における意義の範囲内で）にあたります。かかる記述や情報（以下、合わせて「将来の見通しに関する記述」）は、将来の出来事や当社の将来の業績、事業見通しあるいは事業機会に関連するものです。将来の見通しに関する記述は、将来の業績予想、未確定の推定量および経営者が置いた前提に基づく、埋蔵量・資源量の評価、将来の生産水準、将来の設備投資や探査・開発活動への設備投資配分、将来の掘削・その他探査・開発活動、最終的な埋蔵量・資源量の回収、特定鉱区の探査・開発・予想生産能力への到達時期などに関する記述を含みますが、これらに限定されるものではありません。

過去の事実以外のあらゆる記述が将来の見通しに関する記述になる可能性があります。確認および推定埋蔵量・資源量の評価に関する記述も将来の見通しに関する記述の対象となり、その埋蔵量・資源量について経済的に開発が可能であるという特定の前提に基づく結論を反映しているとみなされる可能性があります。予想、期待、考え、計画、予測、目標、前提、将来の出来事や業績に関する議論について示す・関するあらゆる記述（「目指す」、「想定する」、「計画する」、「継続する」、「予測する」、「期待する」、「可能性がある」、「するだろう」、「予想する」、「予見する」、「潜在的な」、「狙う」、「意図する」、「ありうる」、「しかねない」、「するはずだ」、「思う」等の言葉や言い回し、その他類似する表現が使われることが多いですが、必ず使われるわけではありません）は、過去の事実の記述ではなく、「将来の見通しに関する記述」である可能性があります。将来の見通しに関する記述には、かかる将来の見通しに関する記述で予想されたものとは大きく異なる実際の結果や出来事を引き起こす可能性がある既知および未知のリスク、不確実性並びにその他要因を伴います。

これらの将来の見通しに関する記述に反映された期待は合理的なものであると当社は考えますが、これらの期待が正しいとの保証はなく、このような将来の見通しに関する記述に過度に依拠すべきではありません。適用法令により義務付けられている場合を除き、当社はこれらの将来の見通しに関する記述を更新するつもりはなく、またその義務を一切負いません。

これらの将来の見通しに関する記述は、とりわけ、原油価格の変動、探査・開発活動の結果、付保されていないリスク、規制の変更、権原上の瑕疵、資材や設備の有無、政府その他の規制承認等の適時性、設備の実際の稼動、合理的な条件での資金調達の有無、仕様や期待に関連する外部サービス提供者、設備およびプロセスの有無、並びに操業における予期せぬ環境的な影響を含む様々な事項に関するリスクと不確実性を伴います。実際の結果は、かかる将来の見通しに関する記述に明示あるいは黙示された内容と大きく異なる場合があります。

© COSMO ENERGY HOLDINGS



COSMOはコスモエネルギーホールディングス株式会社の登録商標または商標です。
各コスモ製品の商品名・サービス名はコスモエネルギーホールディングス株式会社またはグループ各社の登録商標または商標です。
その他の製品および会社名は、各社の商号、登録商標または商標です。